

平成30年度 文教委員会資料

【所管事務の調査（報告）】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた本市の
取組について

資料1 事前キャンプ実施に関する英国パラリンピック委員会（BPA）との
覚書締結について

資料2 東京2020大会にむけた本市のホストタウンの取組について

市 民 文 化 局

（平成30年6月15日）

事前キャンプ実施に関する英国パラリンピック委員会（BPA）との覚書の締結について

1 覚書締結の目的

東京2020パラリンピック競技大会に向けた英国パラリンピック代表チーム（パラリンピクスGB）による事前キャンプ実施について関係者間で大筋合意されたことから、施設の提供や相互のパートナーシップ等に関する覚書を英国パラリンピック委員会（BPA）、川崎市、慶應義塾大学、横浜市の間で締結

【これまでの経緯】

- 平成28年2月8日 英国オリンピック委員会（BOA）、川崎市、慶應義塾大学、横浜市、日本オリンピック委員会（JOC）との間で事前キャンプ受け入れに向けた覚書を締結
- 平成29年3月21日 慶應義塾大学、横浜市とともにBOAとの間で事前キャンプ施設使用に関する契約を締結
- 平成29年4月 BPAより事前キャンプ実施の意向書を收受
- 平成29年9月 BPA及び各種競技団体による視察受入及び意見交換
- 平成30年1月 BPAによる視察受入及び意見交換

2 BPAとの覚書締結式

- 締結日 平成30年5月24日（木）
- 会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館2階イベントホール
- 署名者 ティム・ホリングスワース BPA CEO
福田 紀彦 川崎市長
長谷山 彰 慶應義塾大学塾長
林 文子 横浜市長
- 来賓 東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣
日本パラリンピック委員会委員長
駐日英国大使館首席公使
スポーツ庁審議官
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長



3 覚書の主な内容

(1) 主な使用予定施設

川崎市：等々力陸上競技場、川崎富士見球場（富士通スタジアム川崎）、川崎市スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）
慶應義塾大学：日吉キャンパス（体育施設）
横浜市：横浜国際プール
なお、本覚書に掲げるこれらの施設の事前キャンプでの使用が約束されるものではない。

(2) 戦略的パートナーシップの構築

- 施設使用の正式な契約締結に向けた相互協力や英国内の類似施設の紹介
- 「スポーツを通じて障害者によりよい社会を創造する」というBPAの理念に基づく先進的な取組、知見等の共有
- スポーツ科学・医学、教育・トレーニング、若者のスポーツ参加、文化芸術、地域コミュニティとの交流などの分野を基本とした交流プログラムの作成
- 宿泊施設や輸送等、スポーツ施設以外の調達支援

(3) 使用施設に関する具体的な契約締結の時期

東京2020パラリンピック競技大会への英国パラリンピック委員会関連団体の出場資格の取得状況に応じ、2019年3月までに施設等に関する必要な契約を締結することを目指す。

(4) その他

本覚書に基づく協議及び商業的取決めに係る事項を除き、本覚書は法的拘束力を有しない。

【現時点の使用施設と実施競技（予定）】

※セットアップ期間を含め2020年8月9日から8月29日までの利用を想定

	川崎市	慶應義塾大学	横浜市
パラリンピック代表チーム	等々力陸上競技場 陸上競技	日吉キャンパス 柔道・パワーリフティング・テコンドー・ウィルチェアフェンシング・アーチェリー・5人制サッカー	横浜国際プール 水泳
	富士通スタジアム川崎 アーチェリー・5人制サッカー		
	カルッツかわさき バドミントン・ボッチャ・卓球・ウィルチェアラグビー・ゴールボール		

【参考】英国オリンピック委員会との契約に基づく実施競技及び期間

	川崎市	慶應義塾大学	横浜市
オリンピック代表チーム	等々力陸上競技場 陸上競技・サッカー・ラグビー （セットアップ期間を含め7/3から8/5までの34日間）	日吉キャンパス アーチェリー・バドミントン・ボクシング・ホッケー・フェンシング・体操・柔道・空手・近代五種・卓球・テコンドー・ウェイトリフティング	横浜国際プール 水泳（競泳、シンクロナイズドスイミング、飛込）

4 今後の取組の方向性

(1) 事前キャンプ実施施設に関する協議

本覚書後締結後のBPAとの協議内容を踏まえ、事前キャンプ実施競技、使用施設の使用料/利用料、実施期間等に関する具体的調整を関係局・区及び関係団体と進める。

(2) かわさきパラムーブメントとの連携

本市のハード・ソフトのバリアフリーに向けた取組へのBPAからの助言や、幅広い分野における交流事業に関する取組の企画・調整を進める。

(3) 川崎市・慶應義塾大学・横浜市3者連携事業の推進

大会2年前を契機に、川崎市、慶應義塾大学、横浜市の3者で英国オリンピック・パラリンピック代表チームを応援する連携事業を展開していく。



東京2020大会に向けた本市のホストタウンの取組について

- ホストタウン制度とは、全国の自治体と大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図り、住民等と選手、大会参加国・地域の関係者、オリンピック・パラリンピアンとの交流や、スポーツ振興、教育文化の向上及び共生社会の実現に資する観点から国が推進するもの
- 本市は英国を相手国としたホストタウンとして平成28年2月に第1次登録

1 ホストタウンの仕組み

- ・交流計画を申請しホストタウンとして登録された自治体に対し、関係府省庁は各種財政措置、人材の派遣、情報提供などを通じ、ホストタウンの取組を支援
- ・ホストタウン交流計画に位置付けられた事業に対する国の予算又は地方財政措置による支援
 - 取組に対する特別交付税措置:対象経費の一般財源の2分の1
 - 施設改修に係る地方債措置:地域活性化事業債(充当率90%、交付税措置率30%)の対象 など
- ・平成30年4月27日現在の全国の登録件数 227件、相手国・地域 95

2 本市の主なホストタウン交流計画事業

相手国関係者との交流

- ・英国の公的な国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルとの連携事業の推進
- ・英国代表チーム事前キャンプ実施時の選手や関係者との交流

日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

- ・JOCとのパートナー都市協定に基づく「オリンピック教室」の開催
- ・オリンピック・パラリンピアン市内小中学校への派遣
- ・パラリンピック競技等周知体験イベントの実施

事前キャンプ使用施設の改修

等々力陸上競技場及び補助競技場



ブリティッシュ・カウンシルとの連携事業による高齢者施設での音楽ワークショップ
© British Council



周知体験イベントの様子

3 「共生社会ホストタウン」の新設

特にパラリンピックをきっかけとした共生社会の実現を推進するため、国のホストタウン制度の枠組内に「共生社会ホストタウン」が新たに設置、本市は本年5月に第2次登録

「共生社会ホストタウン」とは

共生社会の実現に向けた取組の推進

障害のある海外の選手たちを迎えることをきっかけに、ユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーに向けた、自治体ならではの特色ある、総合的な取組を実施する。また、選手の受け入れだけでなく大会のレガシーとして大会後の発展的な取組にもつなげていく。

東京大会の事後交流も含めた、幅広い形でのパラリンピアンとの交流

パラリンピアンとホストタウンの住民が触れ合うことで、地域におけるパラリンピックに向けた機運を醸成する。また、住民が障害のある選手たちと直接接することで、これから日本が目指す共生社会の実現に向けた気づきを得て、意識を変えていくきっかけとする。

(1) 全国の登録状況

2017年12月 第1次登録 6件

三沢市(青森)、浜松市(静岡)、明石市(兵庫)、宇部市(山口)、高松市(香川)、世田谷区(東京)

2018年5月29日 第2次登録 7件

川崎市(神奈川)、遠野市(岩手)、神戸市(兵庫)、鳥取県・鳥取市(2自治体合同で登録)、田川市(福岡)、飯塚市(福岡)、大分市(大分)

(2) 本市の「共生社会ホストタウン」登録の目的及び効果等

- ・パラリンピックに向けた機運醸成を図るとともに、心のバリアフリーをはじめとする「かわさきパラムーブメント」の推進による共生社会の実現に向けて、より一層の弾みをつける契機とする。
- ・本市の取組が好事例として多方面で紹介されることで、川崎発のムーブメントが全国に広がっていくことが期待される。

川崎市の共生社会ホストタウン 活動計画

かわさきパラムーブメントの推進と英国チームの事前キャンプ受入

持続可能なまちづくりに向けて、様々な価値を持つ東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、**特にパラリンピックに重点を置き、誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指す運動を「かわさきパラムーブメント」と命名。**

検討段階から障害者団体等の意見を聞き、方向性を示した「**かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョン**」を策定。

ビジョンでは、「多様性と社会的包摂」及び「川崎のブランド力」に大別した9つのレガシーが形成された状態を明らかにし、その実現に向け、障害のある方をはじめとする社会的マイノリティの方々も一緒になり、市民一人ひとりが主体となり川崎から社会変革を促進。

また、英国代表パラリンピアンとの交流等により、パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図るとともに、共生社会の実現に繋げる。

めざせ！やさしさ日本代表！

みんなの違いを活かせるチーム。
障がい、年齢、人種やLGBT
いろんな個性をチャンスにしよう。
川崎らしく、力強く。
未来を築いていく力は
私たちの中にある。



かわさきパラムーブメント

本市の掲げるステートメント入りのロゴ

ユニバーサルデザインの街づくり

● UDタクシーの普及と利用環境整備

- UDタクシーの導入補助（平成29年度末で58台）
- 専用乗り場の整備
→引続き、車両台数の増加と乗り場整備を推進
- UDタクシーを活用した工場夜景ツアーの実施



UDタクシー

● 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進

- 19地区におけるバリアフリー基本構想等に基づく視覚障害者誘導用ブロックの設置等
- 市内バリアフリーマップ（主要施設のバリアフリー情報含む）の刷新

◆ 川崎駅周辺の取組

- 行政サービスと観光案内の機能を持つ「かわさき またテラス」におけるデジタルガイドマップによるバリアフリー情報の発信
- 駅周辺のエレベーターに優先使用表示の推進



飲食店調査の様子

● アクセシブルシティかわさき

- 市内飲食店のバリアフリー調査と情報発信の試行
- 店舗におけるバリアフリー対応表示の推進

心のバリアフリー

● かわさきかってにおもてなし大作戦(市民参加、市民活動の創発)

- パラムーブメントをより大きなうねりとしていくために、「ゲストからキャストへ」をキーワードに、障害の有無に関わらず多様な主体が「かわさきパラアンバサダー」として楽しく地域活動を行う、市民参加型のプロジェクトを推進

● 英国との交流事業

- ドレイク・ミュージック(英国音楽団体)と連携し、テクノロジーを活用することで、障害のあるなしに関わらず、音楽活動に関わる機会を生み出し、障害のある方が音楽に携われる取組の推進
- 高齢者のQOL向上を目指し、マンチェスター・カメラータ（英国音楽団体）のメンバーと連携した取組等の推進

● 短時間雇用プロジェクトと就労体験

- 市内事業者が仕事を切り出すことによる障害者の短時間就労の促進（平成30年2月で延べ28名が就労）
- 障害者やひきこもりの方々に対し、様々な分野での就労を体験することで、労働・就労意欲を喚起し、正規就労を促進（平成29年度は、74の体験企画を実施し、739名が参加）

● その他

- 市職員のユニバーサルマナー検定取得や事業者向けセミナーの開催、平成32年度までに全小中学校で障害者スポーツ体験講座の実施など